

# 新成人だけでなく恩師も登場して楽しい「成人の集い」 2100人が新成人としてスタート



上越市の成人式が6日、リージョンプラザで行われました。新しく成人になった人は約2100人、家族や中学時代の恩師、来賓などに祝福されて新しいスタートを切りました。

式典では新成人を代表して、熊木克也さんと竹内妙子さんがこれまでお世話になった人たちへの感謝と今後の抱負、決意を語りました。2人とも二十歳になったばかりとは思えないほど落ち着いていましたね。右上の写真はスピーチする熊木さんと竹内さん（右後ろ）です。

いつもなら、成人式は式典が終わると帰ったのですが、この日は、その後の「成人の集い」にも参加してきました。

7人の実行委員のみなさんが素敵な舞台を用意してくれました。会場には卒業した中学

校ごとに恩師が新成人とともに参加していましたが、実行委員がステージ上でくじを引き、恩師の先生に舞台上がってもらい、インタビュする。その先生が今度のはひとりの教え子の名前を呼び、ステージ上で教え子が成人としての抱負や決意を語る、という企画です。

最初は城西中学校時代の恩師、カモイ先生が選ばれて登壇、「人の役に立てる大人になってほしい」と語り

ました。二番手は直江津東中学校時代の恩師、テラオカ先生です。当時のことで印象に残っていることはと訊かれ、「自転車小屋でお話をしたり、空き時間に女子生徒と一緒に稽古したりした」と答えておられました。先生は、「努力の上には花が咲く」という言葉を新成人に贈りました。最前列にいた私には、先生も、新成人も緊張している様子が伝わってきましたが、みんな素敵なスピーチでした。

成人式には私の姪もいました。この姪は私の母に似た顔をしていて、子ども時代からとても人懐こい子でした。大きく育ってくれました。

高田の「あすとぴあ高田」（旧長崎屋跡地にできた施設）が12日に開館。同施設内にある美術館、「ミューゼ雪小町」もオープンしました。

こけら落としは上越市出身の画家、柴田長俊さんの絵画展。幸運にも柴田さんによる作品の解説を聴くことができました。絵の具として使うものは鉱石や貝殻などです。茶色は佐渡の赤玉石、白は潮来牡蠣の貝殻を使い、柴田作品で特徴的な紺青は銅山のアズライト（藍銅鉱、らんどこう）を使っているとのことでした。左の写真の作品では、このアズライトを17キロも使ったといわれています。鉱石を砕き、洗い、選別して絵の具にするんだそうです。絵を描き終わった時、重くて、一人では立て懸けることが出来なかつたとか。絵を描くということがこんなにも力仕事だとは知りませんでした。作品の解説を聴いているうちに、柴田さん自身絵に描かれたお月さんのように見えてきました。



【センボンヤリ】キク科。漢字で「千本槍」と書きます。白いタンポポ風の花を咲かせます。初めて出合った時は秋でした。秋の花茎は30センチからあり、まさに槍でした。名前はそこからきているのでしょうか。

## 「あすとぴあ高田」内の新美術館、「ミューゼ雪小町」がオープン

高田の「あすとぴあ高田」（旧長崎屋跡地にできた施設）が12日に開館。同施設内にある美術館、「ミューゼ雪小町」もオープンしました。

こけら落としは上越市出身の画家、柴田長俊さんの絵画展。幸運にも柴田さんによる作品の解説を聴くことができました。絵の具として使うものは鉱石や貝殻などです。茶色は佐渡の赤玉石、白は潮来牡蠣の貝殻を使い、柴田作品で特徴的な紺青は銅山のアズライト（藍銅鉱、らんどこう）を使っているとのことでした。左の写真の作品では、このアズライトを17キロも使ったといわれています。鉱石を砕き、洗い、選別して絵の具にするんだそうです。絵を描き終わった時、重くて、一人では立て懸けることが出来なかつたとか。絵を描くということがこんなにも力仕事だとは知りませんでした。作品の解説を聴いているうちに、柴田さん自身絵に描かれたお月さんのように見えてきました。



高田の「あすとぴあ高田」（旧長崎屋跡地にできた施設）が12日に開館。同施設内にある美術館、「ミューゼ雪小町」もオープンしました。

子どもの頃、何度か会っただけで、もう五〇年以上も会っていない人となら再会しました。声をかけられた瞬間、「あっ、藤野さんですね」と声を出してしまいました。が、間違いありませんでした。マエダのS子さんだったのです。

マエダというのには四十数年前まで吉川区尾神にあった藤野さん宅の屋号です。S子さんは私よりも年上で、その娘さんでした。S子さんと再会したのは半月ほど前、場所は高田の大島画廊でした。ちょうど上越高校の大口満先生の個展が開催されていたときです。いうまでもなく、藤野さんというのにはS子さんの旧姓です。S子さんは画廊で私の顔を見るなり、「まあ、橋爪さん」と声をかけてくださったのでした。

正直言って、私自身、声をかけられてすぐに「藤野さん」という名前がなぜ出たのが不思議なくらいです。ただ、顔は明らかに見たことのある顔でした。眼は一見、きつそうだけれども、ものすごく優しいところのある人懐こい顔。瞬時に「マエダの人だ」と判断しました。

画廊で、S子さんが小さな喫茶店兼食堂を経営していらつしやるということを知りましたので、先日、お昼の時間帯に出かけてきました。

お店の名前は「あひる」。ドアを開けて入った途端、S子さんは「まあ、うれい。よく来てくんだった」と大喜びして私の手を握り、一番奥のテーブルへと案内してくださいました。

私がお店に入った時、お客さんは私を含めて三人でした。一人は踊りのお師匠さんらしく、身のこなし方も美しい方でした。もうひとりの方は細っこい男性で、新聞をもくもくと読んでいました。常連のお客さんなのでしょう。S子さんは私と話をしたかったらしく、すぐに話を始めました。

「さっそく『あねさかぶり』を読んだんだけど、情景がすつと浮かんでくるし、何よりも蚩場（ほたるば）とか釜平（がまびろ）という名前が懐かしくてね……。日曜日の新聞にあんたの名前が載っていたので拍手をしたんだわ」

話をする中で、S子さんは私よりも五つ年上であること、私の顔についてはパンフレットや議会のテレビ中継などで知っていたこと、私の父や母とは付き合いがあり、わが家のことをかなり知っておられることなどがわかりました。

年が五つも違うにもかかわらず、話はずんだのは同じ集落で育ち、同じ学校に通っていたからです。カミ（屋号）のヒトシちゃんには郵便局長になったとか、アマイケノニシ（屋号）のマサヒロさんは施設暮らしだとかいった情報は、時どき店にやってくるというトナリ（屋号）のミヨコさんあたりから入ったのでしようか、よく知っておられるのには感心しました。

小中学校時代のことになる、私が知らなかったことが次々と出てきました。私もお世話になった中村三代志先生の話になったらS子さんは目を輝かせ、「先生は、図画の授業の時、子どもたちが描いた絵はどの絵も必ず一か所ほめてくんだった」と語りました。学校からの帰り道、吉原という場所に、首に生きたヘビを巻いてS子さんたちを驚かせようとした人がいたという話にはびっくりでした。

話の途中、食事が終わった踊りのお師匠さんが席を立つと、S子さんは、「〇〇さん、感謝です」と手を合わせました。その時のS子さんの様子を見て、あつと思いましたが、横顔も体の動かし方も父親譲りだったからです。

## 並行在来線は住民の足、暮らしを守る立場で計画を

市議会新幹線・並行在来線等対策特別委員会が16日開かれ、このほど発表された「えちごトキめき鉄道」の経営基本計画案などに関する質疑が行われました。

日本共産党議員団の平良木議員

は、最初に「住民の日常の足であることが、この鉄道の最大の役割であることから、経営理念には明確に『住民の暮らしの基盤たること』を入れるべきではないか」と質問しました。これにたいして市当局は、

「役割はその通りであり、経営理念は、明確ではないがその考えで作っている。具体的な計画の部分で、住民の足であることを前提にしている」と答えました。

平良木議員はまた、「高校生の通学定期に関しては、極力抑えることを検討するとなっているが、こちらは見直しに入っているのか」とも質問しました。これについて市当局は、「県とも相談しながら、極力抑える方向でやっている。できるだけ抑えたいが、会社が成り立っていかなくなるので、上げないという

わけにはいかない」と答えたので、「収入のない高校生の立場でいうと、上げてもらっては困る。市としても上げないように取り組んでほしい」と訴えました。

注目の、多くの方が気にしている新駅の名称ですが、「他の例では開業2年前に決まることが多いが、JR新潟支社の課長とのやりとりでは、『まだ発表できる時期ではないし、いつになるとも言えない』とされている」とのことでした。いやにのんびりしたことを言っているものですね。そんなことでいいのでしょうか。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	4月10日(水)	4月17日(水)
上越南消防署	0.040	0.036
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.040	0.040
頸北消防署	0.050	0.040
頸南消防署	0.047	0.047
東頸消防署	0.043	0.040
高土分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.060	0.055



白いシヨウジヨウバカマ